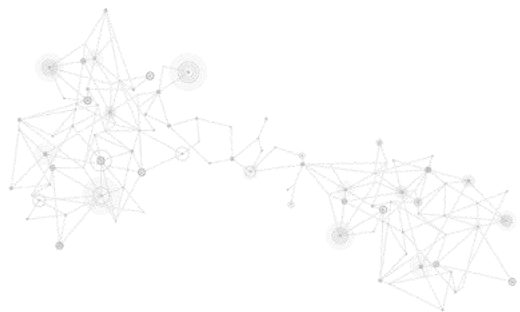




株式会社レノバ（証券コード:9519） 個人投資家向けオンライン説明会資料

2026年8月2日

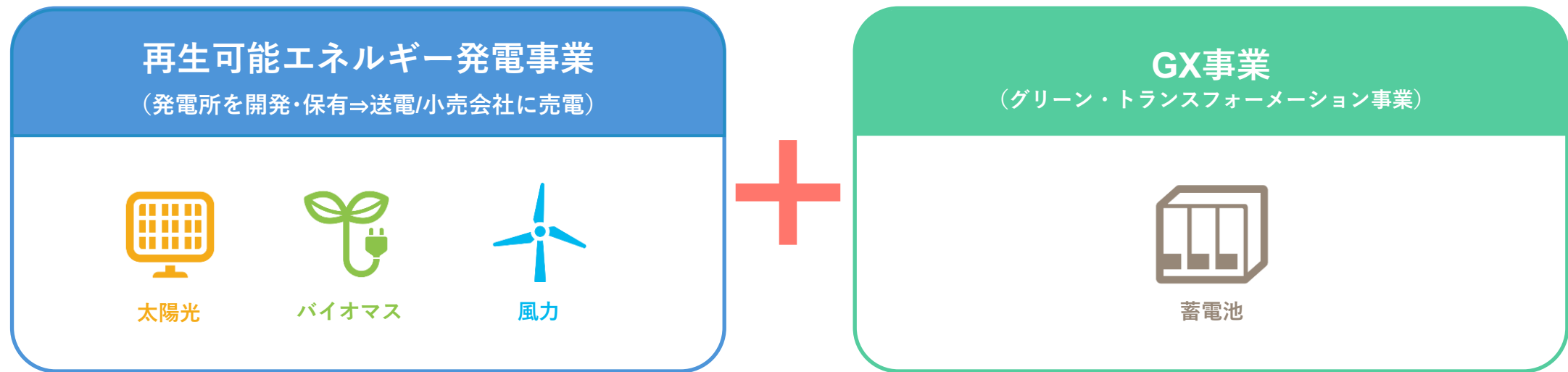


- 01.** レノバのご紹介
- 02.** 再生可能エネルギーを取り巻く市場環境
- 03.** 当社の成長を牽引する蓄電事業
- 04.** 中期経営計画2030の進捗

1. レノバのご紹介



- 再生可能エネルギー発電事業及びGX事業を通じて、グローバルな環境課題の解決と、地域の経済・社会の活性化に繋がる仕組み作りを常に志向



< 会社概要 >

2026年3月時点

本社所在地	東京都中央区京橋二丁目2番1号	証券取引所	東京証券取引所プライム市場
代表取締役社長CEO	木南 陽介	証券コード	9519
設立	2000年5月30日	事業内容	再生可能エネルギー発電所の開発・運営 並びにGX事業の開発・推進
資本金	11,342百万円	従業員数	314名（連結）

- 環境課題をビジネスを通じて解決することを目指す
- 再生可能エネルギー事業を通じて、グローバルな環境課題の解決と、地域の経済や社会の活性化につながる仕組み作りを常に志向

代表取締役社長
CEO

木南 陽介

- 京都大学総合人間学部人間学科卒業
(主専攻：環境政策論、副専攻：物質環境論)
- 学生時代より環境課題とビジネスの両面に携わり、
環境ビジネスでの起業を志す
- マッキンゼー・アンド・カンパニー・インク・ジャパンを経て、
2000年5月株式会社レノバを設立

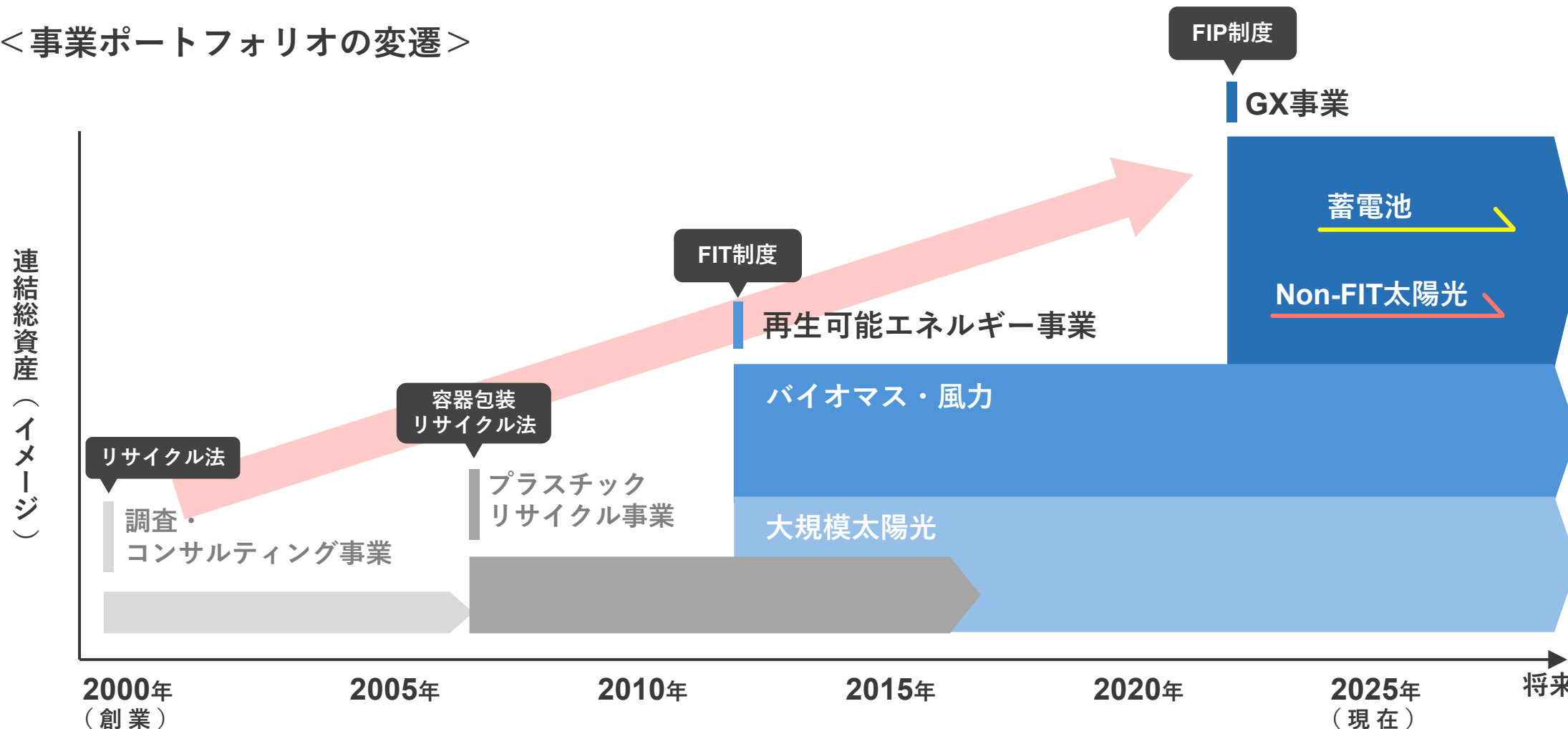


📺 当社公式YouTubeにて創業秘話を公開中！ : <https://www.youtube.com/@renovainc.8680>

▶ 【半歩先のリスクテイクの原点】「環境問題をビジネスで解決する」レノバ創業者が語る創業・成長秘話！

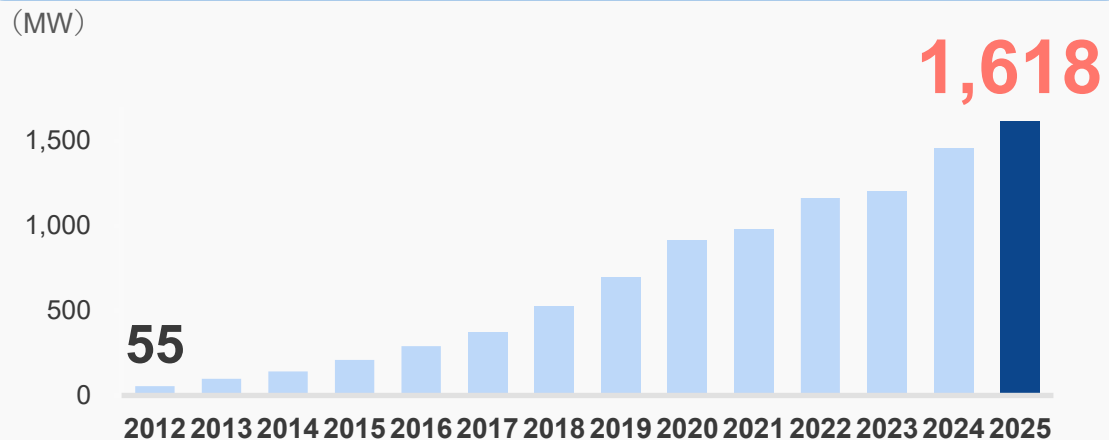
- レノバは創業以来、時代の変化を捉え業態転換することで、環境問題解決の幅を広げてきた
- 2012年より現在の再生可能エネルギー事業を開始

<事業ポートフォリオの変遷>

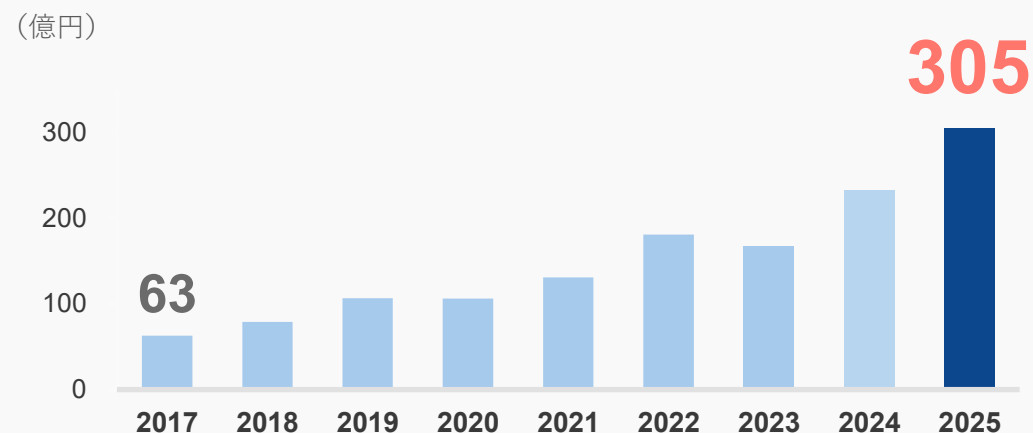


- 上場以来、設備容量と収益は着実に成長
- 長期売電契約を締結し、2026年3月末時点で約1.8兆円の売上高を確保

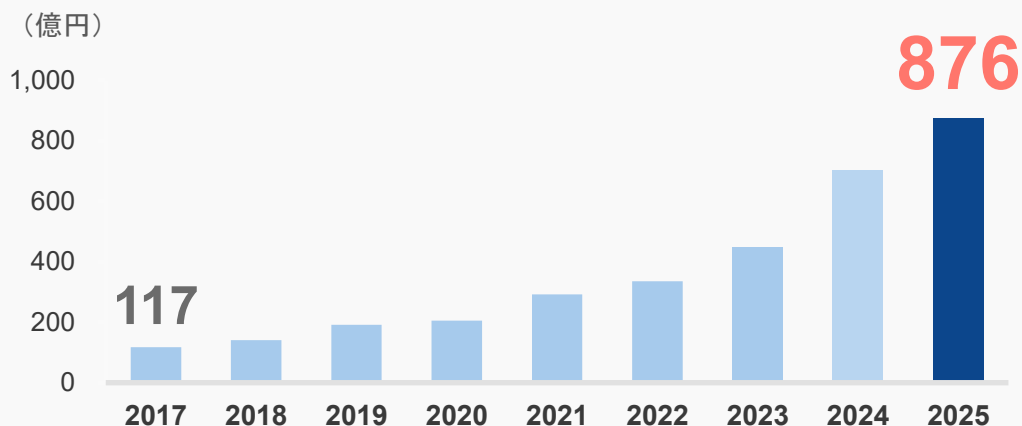
運転中・建設中の設備容量^{*1}の推移



EBITDAの推移



売上の推移



確保済み売電売上^{*2}



運転中・建設中・開発中の事業のマップ

() は運転開始予定年月

九州

運転中	 九重 25.4MW
	 大津 19.0MW
	 人吉 20.8MW
	 苅田 75.0MW
	 南阿蘇湯の谷*2 2.0MW
建設中	 唐津 49.9MW
	 苓北・天草 54.6MW（2027年度）

中部・近畿

運転中	 菊川堀之内谷 7.5MW
	 菊川石山 9.4MW
	 四日市*2 21.6MW
	 御前崎港 75.0MW
	 姫路 15.0MW
建設中	 森町睦実 75.0MW（2028年度）
	 菊川西村 90.0MW（2028年度）
	 袋井宇刈 100.0MW（2029年度）

約1.7GW
(運転・建設中)

北海道

建設中	 石狩 30.0MW（2027年度）	 苫小牧 90.0MW（2028年度）
	 白老 50.0MW（2028年度）	

東北

運転中	 秋田 20.5MW	 軽米東 80.8MW
	 仙台蒲生 75.0MW	 軽米西 48.0MW
	 石巻ひばり野 75.0MW	 軽米尊坊 40.8MW
	 阿武隈*2 約147.0MW	

関東

運転中	 水郷潮来 15.3MW
	 富津 40.4MW
	 那須塩原 26.2MW
	 那須烏山 19.2MW

海外

運転中	 クアンチ（ベトナム）*2 144.0MW	
-----	---	---

中国・四国

運転中	 徳島津田 74.8MW	運転中	 安来 2.0MW（2026年4月）
-----	---	-----	--

全国

中小規模集積型フィジカルPPA

運転中	(売電先)
	 東京ガス 最大13MW (DC)
	 エバーグリーン・マーケティング 最大9MW (DC)
	 鈴与商事 最大2MW (DC)
	 東邦ガス 最大10MW (DC)

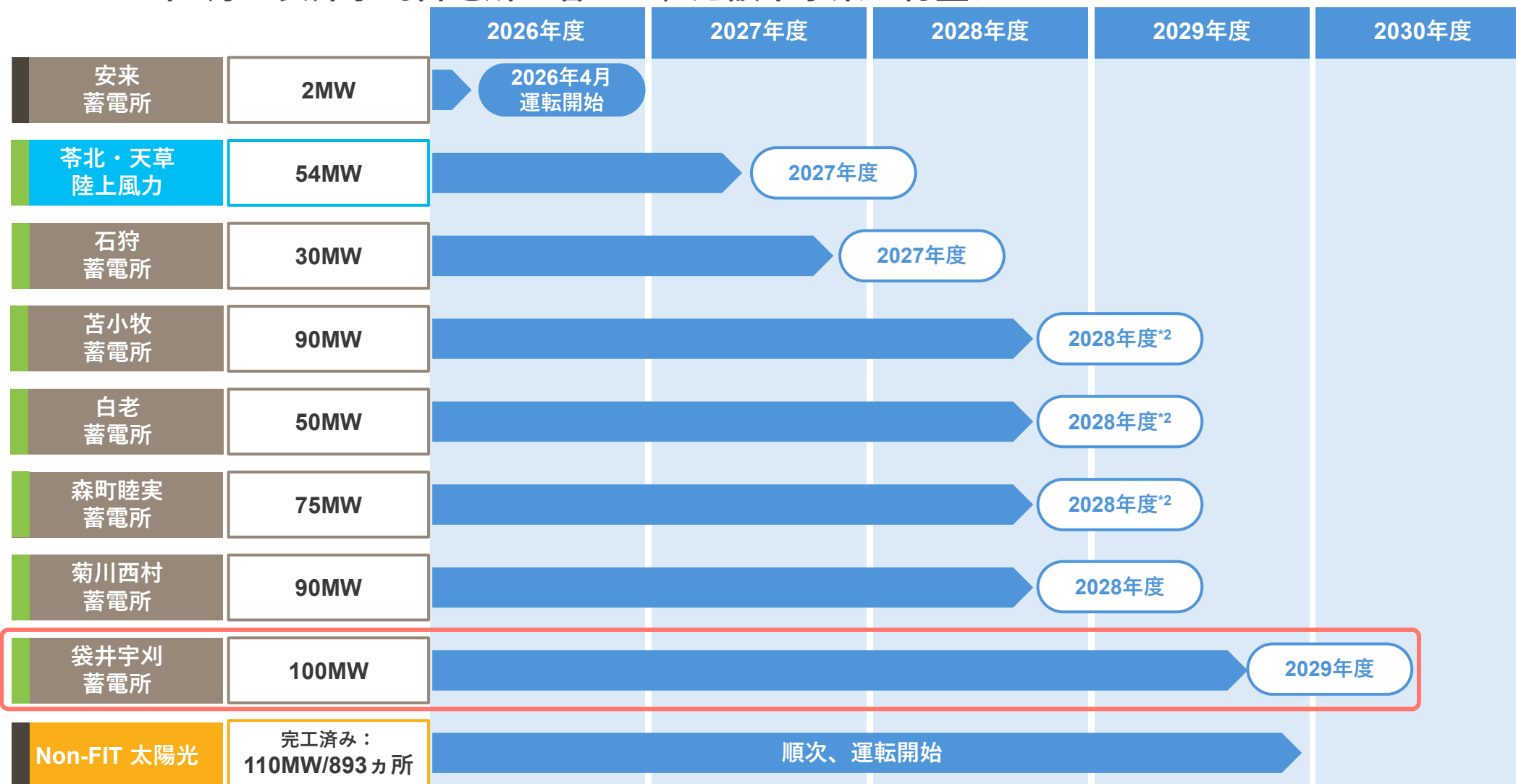
中小規模集積型バーチャルPPA

運転中	(環境価値供給先)
	 村田製作所 最大115MW (DC)
	 大塚商会 最大22MW (DC)
	 国内需要家 最大約36MW (DC)

※PPAはいずれも2023年度より
順次着工・運転開始

■ 2026年4月安来蓄電所が運転開始

■ 2026年7月に袋井宇刈蓄電所が着工し、建設中事業の総量は489MW



運転開始後
連結化予定

連結事業

運転開始
予定年月

*1 建設中の事業の運転開始の年月は、現状における予定であり、変更、遅延となる可能性がある。当社IR資料においては、EPC契約を締結した時点を「建設開始／着手」とし、建設開始から運転開始までの期間を「建設中」として表記

*2 制度適用開始は、2029年4月

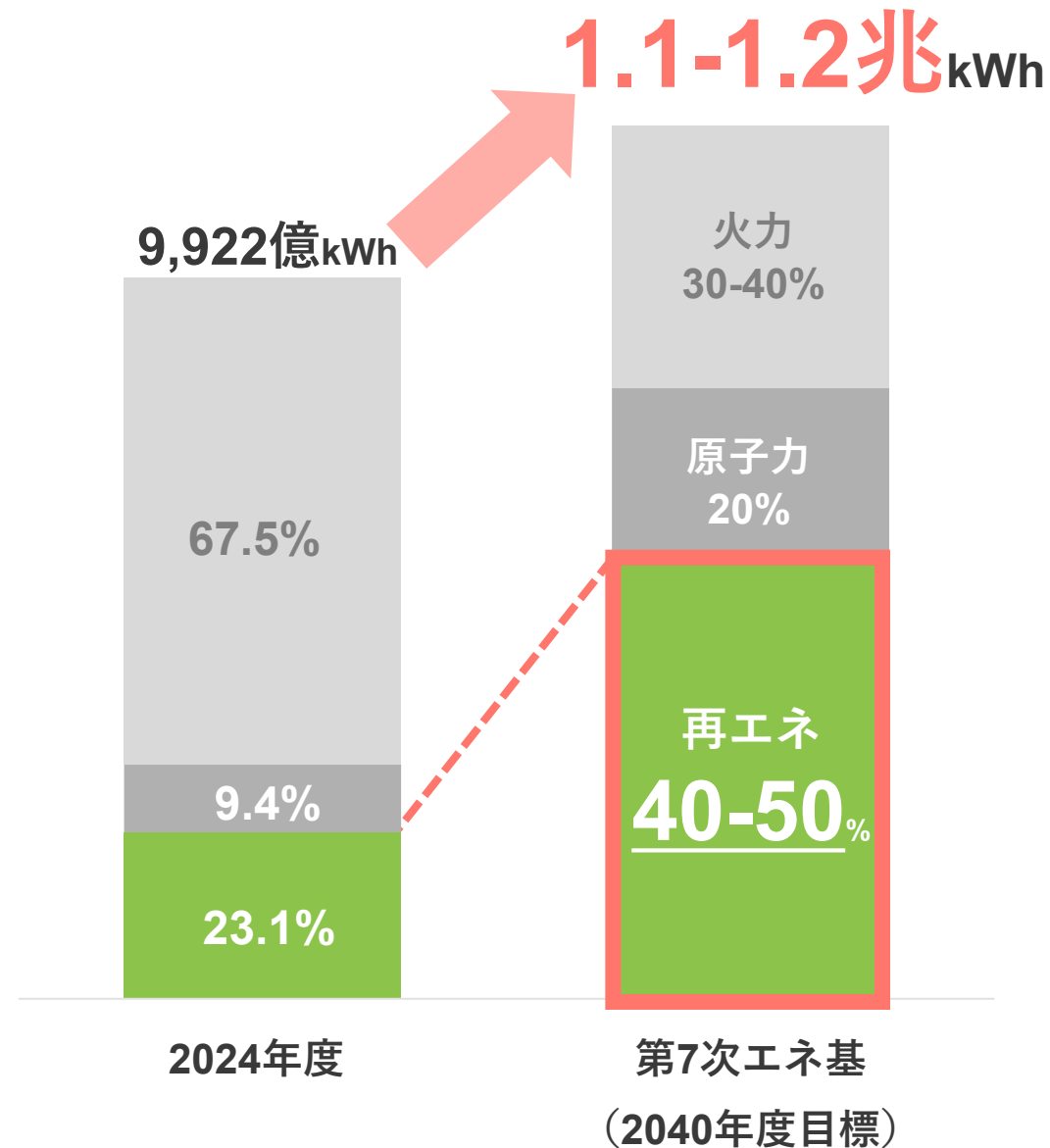
2. 再生可能エネルギーを取り巻く市場環境



2040年度の発電電力量と電源構成



AIの普及・データセンター新增設



民間企業

NVIDIA

ジェンスン ファン氏（最高経営責任者）

－「3Dエクスペリエンス・ワールド2026」の記者会見（2026/2/3）

“人類史上最大規模のAIインフラ投資が始まり、市場がエネルギー発電に投資するだろう。これによりエネルギー供給が増え、電力網の高度化・近代化につながれば、結局エネルギーコストも下がらざるを得ない。”

Microsoft

ブラッド スミス氏（副会長 兼 社長）

－高市首相への表見訪問（2026/4）

2026年から2029年で、日本のAIインフラ等に1.6兆円の投資計画発表

“本日の発表は、クラウドおよびAI サービスに対して一層高まる日本のニーズに的確に応えるためのものです。私たちは、世界最高水準のテクノロジーを日本に提供するとともに、日本の要件を尊重した安全で信頼性の高いインフラの構築に取り組んでいきます。”

政府

高市 早苗 首相

－中東情勢を踏まえた令和8年度補正予算等についての会見（2026/5/25）

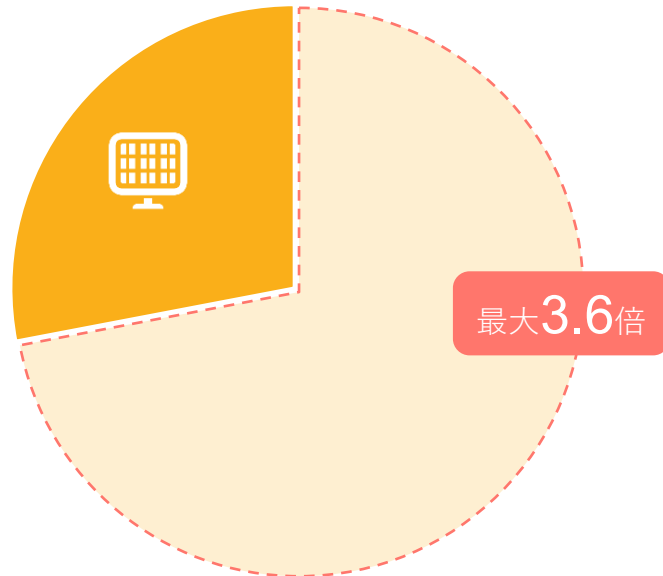
“また、エネルギー需給構造を徹底的に強靱（きょうじん）化するため、GX（グリーン・トランスフォーメーション）を強力に推進いたします。原子力や再生可能エネルギーなど脱炭素電源を、現在の約3割から2040年度に最大7割程度を目指して引上げていくとともに、省エネ・非化石転換を進めて、化石燃料依存の低減を図ってまいります。”

その上で、縮み志向に陥ることなく、ペロブスカイト太陽電池や、原子力、地熱発電など、我が国が強みを持つ危機管理投資を通じて、日本のエネルギー需給構造を強靱化するだけでなく、世界共通の課題であるエネルギー制約を乗り越える製品、技術、インフラの海外展開を強力に推進いたします。「日本成長戦略」の中で、日本の勝ち筋を明らかにし、GXを日本の成長にしっかりとつなげてまいります。”

■ 2040年度目標に対する再エネ全体の未導入容量は約2,147億～4,347億kWh^{*1}（推計：約143～275GW^{*2}）

2040年度のエネルギー基本計画達成に向けた未導入量

導入容量 未導入量



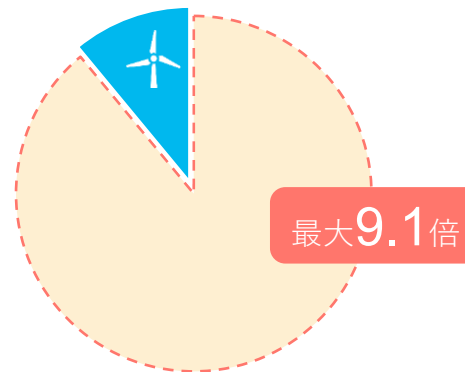
太陽光

発電量^{*3}

2,530～3,480億kWh

設備容量^{*2}

204～280GW



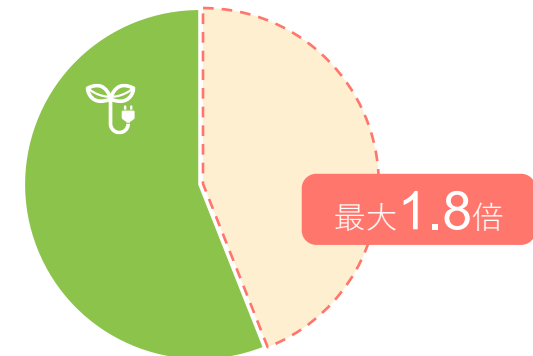
風力

発電量^{*3}

440～960億kWh

設備容量^{*2}

21～46GW



バイオマス

発電量^{*3}

550～720億kWh

設備容量^{*2}

9～12GW

当社公式YouTubeにて注力事業・市場展望の解説動画を公開中！：<https://www.youtube.com/@renovainc.8680>

▶【再エネ急拡大】洋上風力について今思うことーレノバが挑む風力・太陽光・蓄電池の巨大市場とは？

^{*1} 未導入容量は、経産省「第7次エネルギー基本計画」目標値から2023年度実績(速報)を差し引き弊社試算。^{*2} 設備容量(GW)は陸上・洋上の割合や設備利用率を仮定し弊社試算

ホルムズ海峡の封鎖



エネルギー安全保障の
脆弱性が顕在化...

日本のエネルギー自給率

現状(2024年度)

エネルギー自給率 **16.4%**

国産エネルギー（再エネ）

12.2%（自給率の約7割）

準国産
（原子力）
4.2%

海外依存他
（化石燃料等）
83.6%

第7次エネ基を
達成すると...

2040年度

エネルギー自給率 **30～40%**

再エネ
+原子力

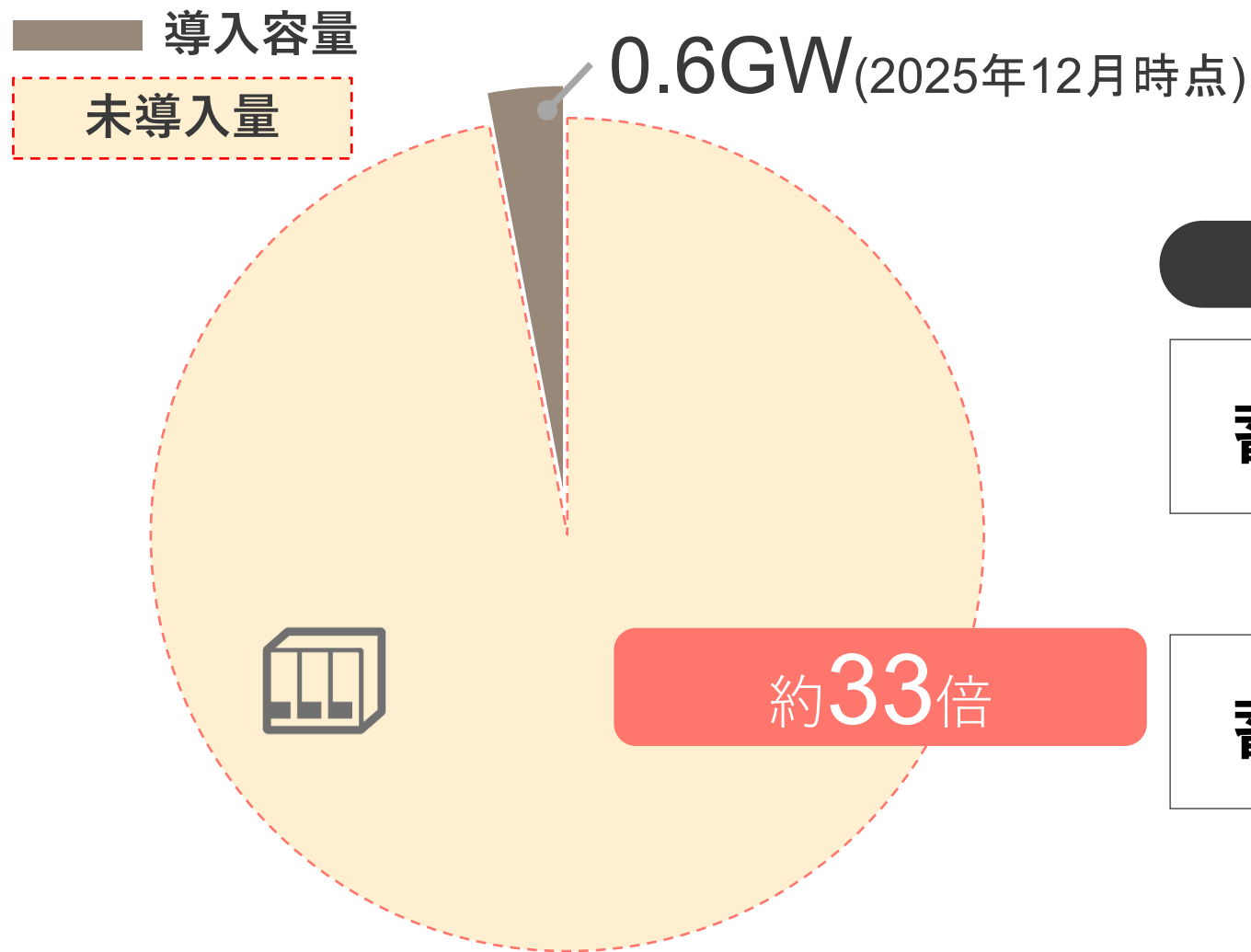
海外依存他
（化石燃料等）
60～70%

▶ 当社公式YouTubeにて特別対談を公開中！：<https://www.youtube.com/@renovainc.8680>

▶ 【エネルギー自給率 15.3%】イラン危機で見た日本の弱点と再生可能エネルギーが握る安全保障のカギ

3. 当社の成長を牽引する蓄電事業





2040年度の想定値

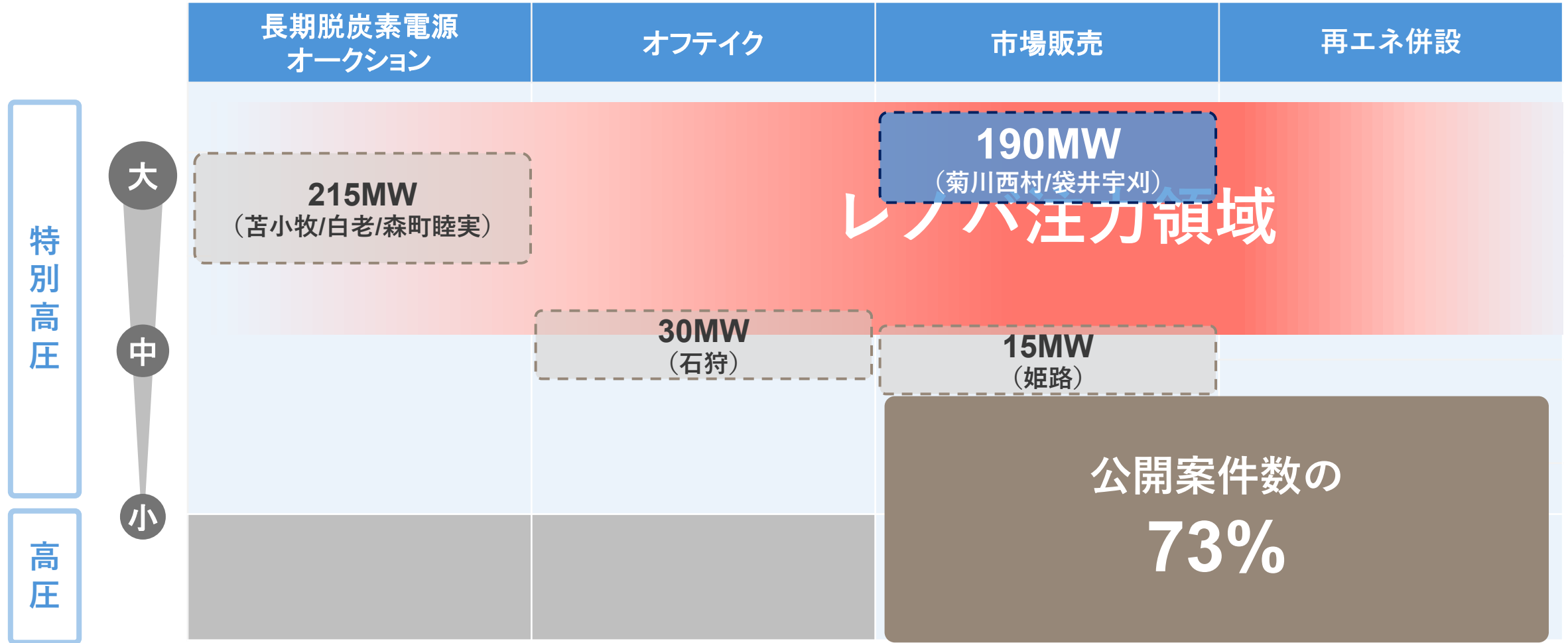
蓄電容量

0.63億kWh^{*1}

蓄電出力

20.9GW

*1 2040年度の蓄電出力（想定値）に3時間率と仮定して算出



大規模×市場販売型蓄電事業に最注力

運転中・建設中



苫小牧 / 白老 / 森町睦実



石狩



姫路 / 安来



菊川西村 / 袋井宇刈^{*1}

452MW

国内トップランナー

開発中



大規模×1件^{*2}

75MW

今期末までに、更に527MW(1.6GWh)に拡大

FY2030

売上

135～145億円/年

EBITDA

90～100億円/年

4. 中期経営計画2030の進捗



ミッション

グリーンかつ自立可能なエネルギー・システムを構築し、重要な社会的課題を解決する

ビジョン

日本とアジアにおけるエネルギー変革のリーディング・カンパニーとなること

中期経営計画2030ハイライト

電源

設備容量

1.5GW

累計GHG削減量

400万t-CO₂

EBITDA

233億円

追加投資領域

太陽光



蓄電池



陸上風力



バイオマス



FY 2024

FY 2030

5.0GW

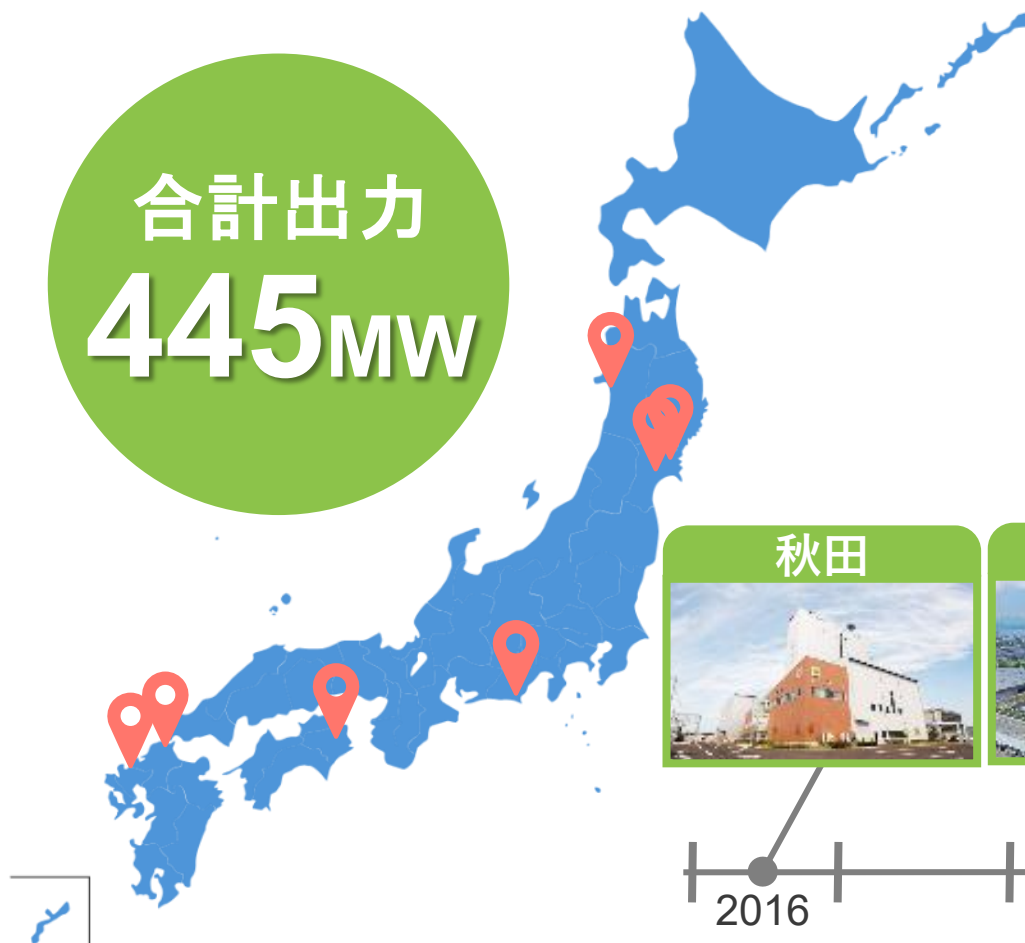
2,000
万t-CO₂

600億円

▶ 当社公式YouTubeにて蓄電事業と中計目標の解説動画を公開中！：<https://www.youtube.com/@renovainc.8680>

▶ 【次世代エネルギー】蓄電池って何？電力安定化の救世主でレノバが目指す1GW構想を解説！

合計出力
445MW



秋田



荏田



仙台蒲生



徳島津田



石巻ひばり野



御前崎港



唐津



2016

2021

2022

2023

2024

2025

全発電所の安定稼働



持続的な収益向上

当社公式YouTubeにて地域共生（太陽光・バイオマス）の動画を公開中！：<https://www.youtube.com/@renovainc.8680>

▶【太陽光がダメは本当？】土地問題・地元反対を信頼で乗り越える「地域共生」というレノバの真の強み

大規模蓄電事業の連続的な着工

①菊川西村蓄電所



2026年3月 着工
プロジェクトファイナンス：
約60億円

モデル
展開

②袋井宇刈蓄電所



2026年7月 着工
プロジェクトファイナンス：
約72億円

レノバの競争力

系統確保

調達

運用

ファイナンス

市場販売型事業の連続開発モデルの確立に成功
国内最大のプロジェクトファイナンスを連続組成

当公式noteにて「袋井宇刈蓄電所」の解説記事を公開中！：https://note.renovainc.com/n/n8aaa9b1ed2b4?sub_rt=share_pw

▶【IR解説】2件目の国内最大規模！「袋井宇刈蓄電所」のプロジェクトファイナンス組成から読み解く、蓄電事業の加速

*1 掲載の完成イメージは、設計図面を基に生成AIを用いて作成したイメージであり、実際とは異なる場合があります。また、今後の施工・仕様変更等により変更となる可能性があります

RENOVA



SPC（第一太陽光）

小規模・分散型太陽光の保有・運転
約1,300か所／約170MW



開発パートナー

7社

開発
+ 建設

O&M

PPA

電力・
環境価値
or
環境価値

大手
需要家

6社

プロジェクトファイナンス 223億円



事業概要

発電所名	苓北・天草風力発電所
設備容量	54.6MW
現況	建設中
運転開始	2027年度（予定）
PPA締結日	2026年6月30日
PPA契約先	東京ガス株式会社
PPA契約期間	25年間

東京ガスと25年間にわたる長期PPAを締結
本締結により、事業の収益を向上させ、事業価値の最大化を図る

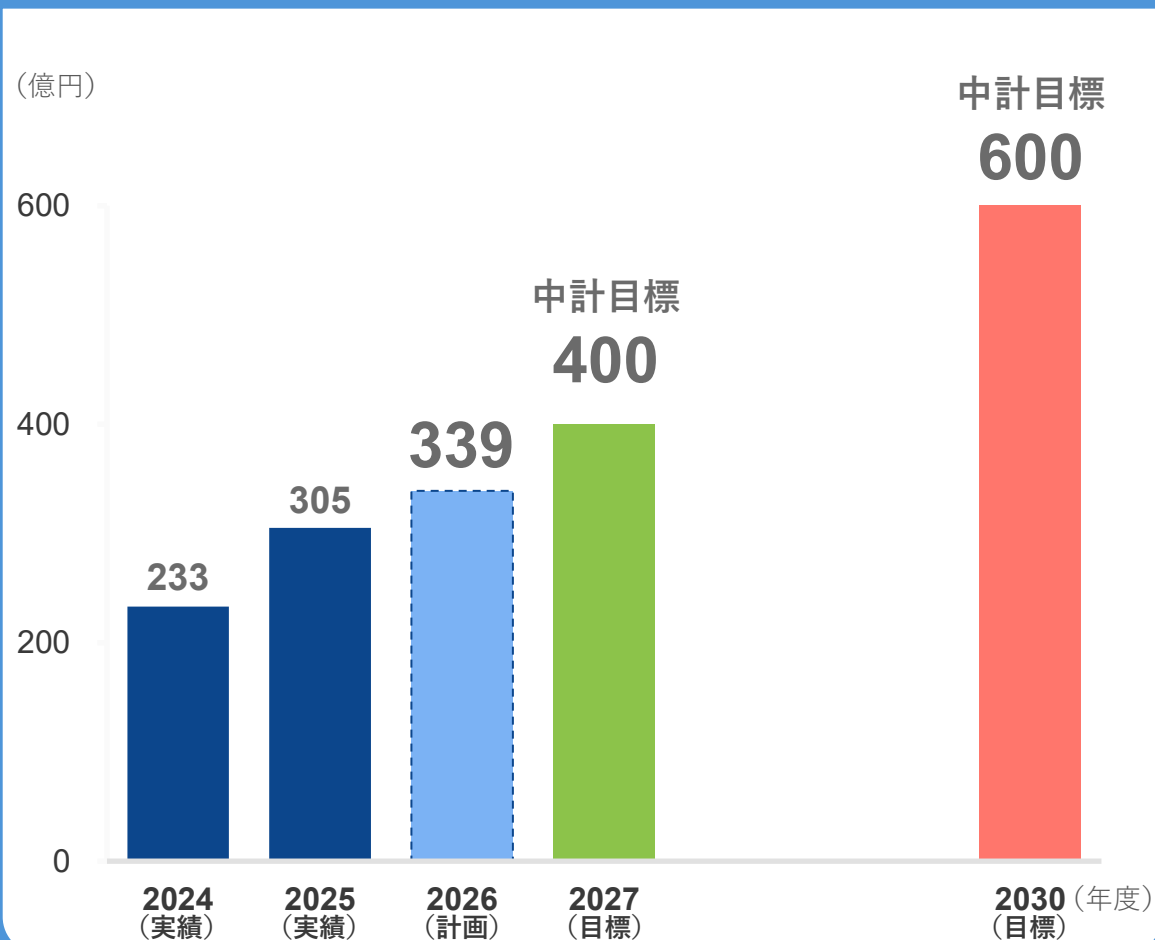
📖 当社公式noteにて解説記事を公開中！：https://note.renovainc.com/n/n3db7f7554ac2?sub_rt=share_pw

▶ 【IR解説】東京ガス様と25年間の長期契約！「苓北・天草風力」のリリースから読み解く、収益向上と提携の成果

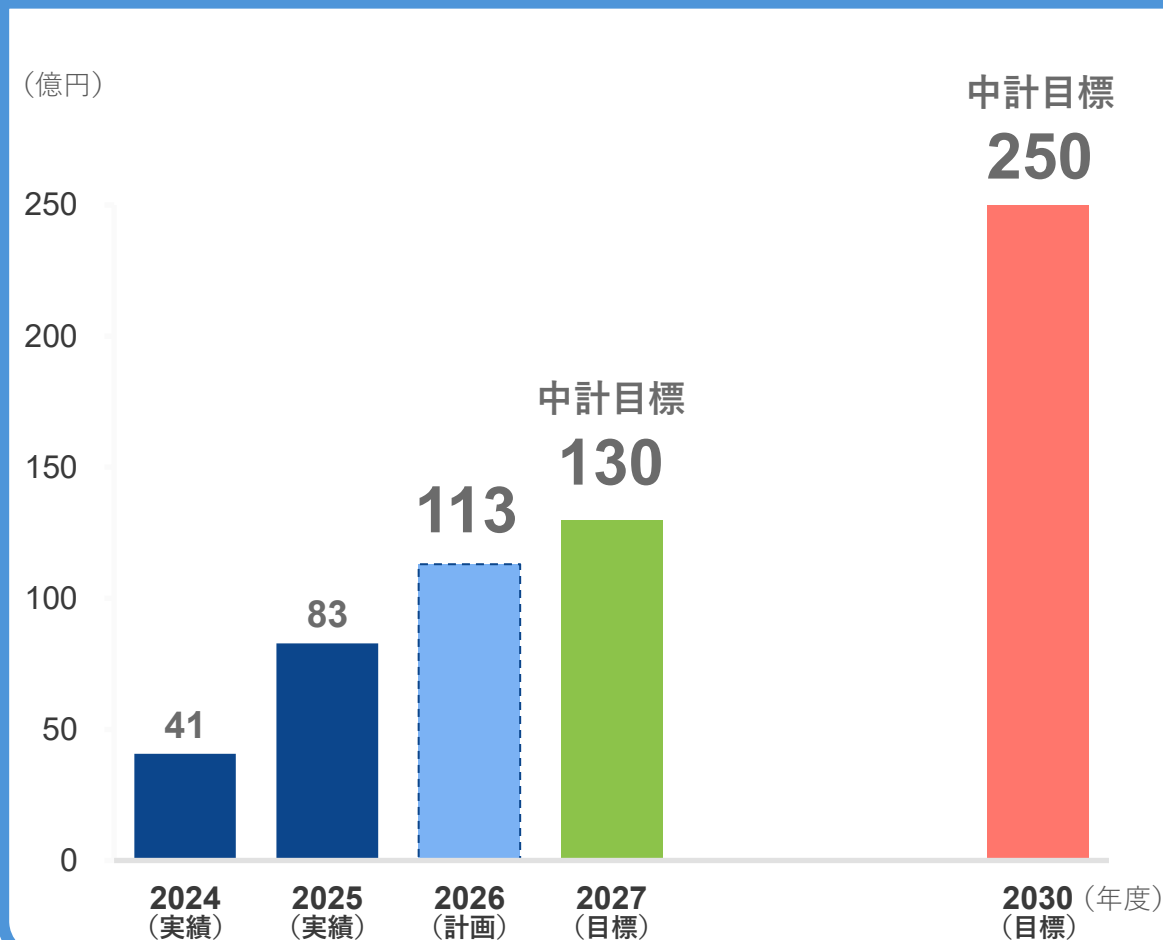
(単位: 百万円 / %)	2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (予想)	変化率
売上収益	87,622	95,700	9%
EBITDA	30,526	33,800	11%
EBITDAマージン	34.8%	35.2%	-
営業利益	8,283	11,300	36%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	3,308	3,400	3%
EPS (円)	36.59	37.61	-
設備容量 (MW)	1,228.7	1,289.7	-

全バイオマス発電所の通年寄与により、増収増益を計画

EBITDA(億円)



営業利益(億円)



2030年度の中計目標に向け、順調に進捗

- 今期、最終投資意思決定・着工開始は4件（国内2件、海外2件）を計画
- 4件のうち、袋井宇刈蓄電所は、2026年7月に着工済み
- 当該4件の2030年度時点のEBITDA貢献は70～90億円を見込む



*1 現時点における事業計画上の想定設備容量であり、今後、変更する可能性がある

		中計目標	2030年度見通し*1	進捗状況	
海外事業 + 国内事業 + 既存事業 収益拡大 開発・運営 (本社コスト含)	海外事業	88億円	60~90億円	○	今期に複数FID計画で順調な進捗
	蓄電池	65億円	120~140億円	◎	開発加速により大幅な進捗
	Non-FIT太陽光	70億円	40~70億円	△	新規PPA獲得遅延、GHGプロトコル*2改定待ち + 電力価格急騰は追い風
	陸上風力	17億円	17億円	○	苓北は着実に進捗
	既存事業	400億円	400億円	○	今後、バイオマス4発電所PPA化 + 収益改善
連結		600億円	590~670億円	○	中計目標に向け順調な進捗

2030年度のEBITDA目標600億円に向けて、
蓄電池の成長をドライバーに順調に進捗



MISSION

ミッション / 経営理念

グリーンかつ自立可能なエネルギー・システムを構築し
重要な社会的課題を解決する



VISION

ビジョン / 目指すべき企業の姿

日本とアジアにおけるエネルギー変革の
リーディング・カンパニーとなること





YouTube

当社CEO木南が語る中期経営計画や創業の想い、日本のエネルギー問題に迫る対談動画などを公開中！

<https://www.youtube.com/@renovainc.8680>



note

適時開示の分かりやすい解説や、発電所の現場レポートなどを写真付きで公開中！

<https://note.renovainc.com/>



(ご参考) 2027年3月期業績予想

- 全バイオマス発電所の通年寄与により、増収増益を計画
- 特に、営業利益は前年比＋36%と大幅増を見込む

(単位: 百万円 / %)	2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (予想)	変化率
売上収益	87,622	95,700	9%
EBITDA ^{*1}	30,526	33,800	11%
EBITDAマージン	34.8%	35.2%	-
営業利益	8,283	11,300	36%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	3,308	3,400	3%
EPS (円) ^{*2}	36.59	37.61	-
設備容量 (MW) ^{*3}	1,228.7	1,289.7	-

- 御前崎港バイオマス発電所の停止期間削減による寄与
- 唐津バイオマス発電所の通年寄与
- 会計上の一時的な評価益（企業結合に伴う再測定による利益及びオプション公正価値評価益）は減少を見込む
- 一方で、営業利益増の寄与

^{*1} EBITDA=売上収益－燃料費－外注費－人件費＋持分法による投資損益＋その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

^{*2} 2027年3月期（業績予想）のEPSは、2026年3月期末における発行済株式総数を期中平均株式数と仮定して算出 ^{*3} 設備容量は弊社持分比率を考慮しないグロス値で表示。Non-FIT太陽光事業は完工ペースの設備容量を計上

■ バイオマス発電事業は、全発電所の通年寄与により、強固な安定収益を見込む

— スポット調達の燃料価格及び為替前提：木質ペレット185ドル／t、認証PKS130ドル／t、1ドル155円

（単位：百万円）

		2026年3月期 （実績）	2027年3月期 （予想）	増減
大規模太陽光*3	売上収益	14,273	13,700	▲573
	EBITDA*2	11,880	11,400	▲480
	営業利益	5,699	5,600	▲99
	当期利益*5	3,054	3,100	46
バイオマス*3*4	売上収益	70,973	78,600	7,627
	EBITDA*2	21,586	24,000	2,414
	営業利益	9,186	11,100	1,914
	当期利益*5	2,773	3,200	427
Non-FIT太陽光*3	売上収益	1,183	2,100	917
	EBITDA*2	818	1,600	782
	営業利益	344	1,000	656
	当期利益*5	193	300	107
その他*3	売上収益	0	400	400
	EBITDA*2	576	1,600	1,024
	営業利益	576	1,600	1,024
	当期利益*5	564	1,500	936
合計*3*4	売上収益	86,429	94,700	8,271
	EBITDA*2	34,861	38,700	3,839
	営業利益	15,805	19,200	3,395
	当期利益*5	6,584	8,200	1,616

*1 監査法人の監査又は四半期レビュー対象外 *2 EBITDA＝売上収益－燃料費－外注費－人件費＋持分法による投資損益＋その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外 *3 発電等事業SPCが当社に支払う費用（運営管理報酬及び株主劣後ローン利息）をグループ内取引として足し戻した数値 *4 無形資産等償却（後続ページで説明）を足し戻した数値 *5 出資持分考慮後

- 発電所SPC連結時の公正価値評価により連結上認識された無形資産等の償却費*3及び連結グループ内取引*4調整した数値が、会計上の再生可能エネルギー発電等事業の数値

		2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (予想)	増減
(単位: 百万円)				
合計 (前頁記載数値の再掲)	売上収益	86,429	94,700	8,271
	EBITDA*2	34,861	38,700	3,839
	営業利益	15,805	19,200	3,395
	当期利益*5	6,584	8,200	1,616
無形資産等償却調整額*3	売上収益	0	0	0
	EBITDA*2	0	0	0
	営業利益	▲3,064	▲3,200	▲136
	当期利益*5	▲1,454	▲1,500	▲46
連結グループ内取引調整額*4	売上収益	0	0	0
	EBITDA*2	▲999	▲1,100	▲101
	営業利益	▲999	▲1,100	▲101
	当期利益*5	▲610	▲700	▲90
再生可能エネルギー発電等事業 セグメント合計	売上収益	86,429	94,700	8,271
	EBITDA*2	33,862	37,600	3,738
	営業利益	11,741	14,900	3,159
	当期利益*5	4,520	6,000	1,480

*1 監査法人の監査又は四半期レビュー対象外 *2 EBITDA = 売上収益 - 燃料費 - 外注費 - 人件費 + 持分法による投資損益 + その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

*3 企業結合時の公正価値評価額からSPCオンバランスの資産・負債を差し引いた金額を連結会計上、契約関連無形資産として認識し、運転期間である20年間で定額償却。当該償却費は、キャッシュフローを伴わない会計上の費用 *4 運営管理報酬、株主劣後ローン利息等 *5 出資持分考慮後

- 再生可能エネルギー発電等事業は唐津バイオマス通年寄与、及び御前崎港バイオマスの稼働増により前期比増収増益
- 開発・運営事業は、配当金の増加等により増益（連結消去での一部入り繰りあり）

（単位: 百万円）

		2026年3月期 （実績）	2027年3月期 （予想）	増減
再生可能エネルギー発電等事業（A）	売上収益	86,429	94,700	8,271
	EBITDA*2	33,862	37,600	3,738
	営業利益	11,741	14,900	3,159
開発・運営事業 （B）*1	売上収益	5,584	5,400	▲184
	EBITDA*2	1,896	2,000	104
	営業利益	1,469	1,900	431
連結消去（C）	売上収益	▲4,391	▲4,400	▲9
	EBITDA*2	▲5,232	▲5,800	▲568
	営業利益	▲4,928	▲5,500	▲572
合計 （A） + （B）*1 + （C）	売上収益	87,622	95,700	8,078
	EBITDA*2	30,526	33,800	3,274
	営業利益	8,283	11,300	3,017

*1 子会社や関連会社に対する弊社の持分に相当する事業開発報酬等については、連結決算上は連結グループ内取引として連結消去

*2 EBITDA=売上収益－燃料費－外注費－人件費＋持分法による投資損益＋その他の収益・費用。EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外